

雅 楽



この冊子は、**宝くじ**の社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。



陵王



納曾利



(注) 表紙絵は御神楽人長 (舞楽図より)

雅 楽

1 雅楽とは

「^{がく}雅楽」とは、元来は「俗楽」に対する言葉で、正統の音楽を意味します。この意味で雅楽と呼ばれる音楽は中国や朝鮮にもありましたが、その音楽そのものは日本の雅楽とは全く別のものです。

日本の「雅楽」は、日本古来の歌と舞、古代のアジア大陸から伝来した器楽と舞が日本化したものおよびその影響を受けて新しくできた歌の総体で、ほぼ10世紀(平安時代中期)に今日の形に完成した日本の最も古い古典音楽であります。

主として宮廷、貴族社会、有力社寺などで行われてきましたが、現在では宮内庁の楽部が伝承する雅楽がその基準となっています。

2 雅楽の種類

雅楽には、その起源系統によって「^{くにのうたまい}国風歌舞」、「大陸系の^{がくぶ}楽舞」および「^{うたいもの}歌物」の三つの種類があります。

(1) 国風歌舞 (神楽、東遊など)

日本古来の原始歌謡とこれに伴う舞に基づき平安時代に完成した歌と舞です。^{かぐら}神楽、^{あづまあそび}東遊、^{やまとうた}大和歌、^{くめまい}久米舞などがあります。「上代歌舞」、「日本固有の歌舞」などとも呼ばれていますが、平安時代中期に今日の形に完成したものであり、また、大陸系の楽舞の影響を受けており、とくに伴奏に外来楽器の^{りま}箏を採り入れたことは注目すべき点です。

(2) 大陸系の楽舞 (唐楽と高麗楽)

5世紀頃から9世紀初までの約400年間にわたって朝鮮、中国などから伝来したアジア大陸諸国の音楽舞踊に基づき平安時代に完成した器楽と舞です。

和時代から奈良時代までは種々の外来楽舞はそれぞれ渡来した時の形で演奏されていましたが、平安時代には次第に整理統合され、日本化されてゆきます。すなわち、まず、その伝来の系統により「^さ左方」と「^{うほう}右方」とに分けてその楽器編成が区別されました。左方は中国、中央アジア、インド方面に起源を有する楽舞に基づくもので、これを^{とうがく}唐楽と呼び、右方は主として朝鮮、満州方面に起源を有する楽舞に基づくもので、これを^{こまがく}高麗楽と呼びます。また、演奏の形態により「^{かんげん}管絃」と「^{ぶがく}舞楽」とに分けてその演奏技法が区別されました。さらに、多種の外来楽器は取捨選択され、楽団編成は小規模な室内楽形式に変わりました。このような外来楽舞の一大変革と同時に、日本人による作曲、編曲、作舞も盛んに行われ、ここに極めて繊細、優美な日本独自の雅楽が完成したのです。

(3) 歌物 (催馬楽と朗詠)

大陸系の音楽の影響を受けて平安時代に作られ、唐楽器等の伴奏で歌われるようになった歌です。民謡を歌詞とする^{さいばら}催馬楽と漢詩を歌詞とする^{ろうえい}朗詠とがあります。

なお、和歌を歌唱する「^{うたのひこう}歌披講」(宮中の歌会始の儀などで行われています。)は朗詠と同時代に完成した音楽の一分野ですが、全く楽器の伴奏を用いることがなく、雅楽の中には入っておりません。

3 雅楽の演奏形態

雅楽には、「管絃」、「舞楽」および「歌謡」の三つの演奏形態があります。

(1) 管絃

大陸系の雅楽器で奏する器楽合奏です。現在では、もっぱら唐楽を演奏し、ほとんど高麗楽は演奏されません。いわゆる「三管兩絃三鼓」の楽器編成で演奏します。「三管」とは笙、篳篥および龍笛の三種の管楽器を、「兩絃」とは琵琶および箏の二種の絃楽器を、「三鼓」とは鞀鼓、太鼓および鉦鼓の三種の打楽器を言います。

管絃では、管楽器が主な役目をします。すなわち、篳篥が主旋律を奏し、龍笛が同じ旋律をやや装飾的に奏します。これに、笙が和音を付けます。打楽器はもちろんリズムを受け持ちますが、絃楽器も主としてリズム楽器として用います。

奏法は、舞楽の場合には活発に力強く奏するのに対して、管絃の場合には緩やかに繊細に奏します。

なお、歌謡のうち催馬楽と朗詠は、管絃の演目の中に入れて演奏することもあります。

(2) 舞楽

音楽とともに奏する舞で、歌に伴って舞う「国風舞」と、唐楽の伴奏で舞う「左方の舞」および主として高麗楽の伴奏で舞う「右方の舞」とがあります。

① 国風舞は、装束も簡素で、舞い振りも素朴ですが、高雅で壮重なものです。歌の伴奏に和楽器と外来楽器を併せて用います。

② 左方の舞は、原則として赤色の系統の装束を用います。舞人は、向かって左の方から進み出て舞台に登ります。伴奏は、通常、絃楽器を用いず、三管三鼓の楽器編成で演奏します。篳篥と龍笛の旋律に合わせて舞います。

③ 右方の舞は、原則として緑色の系統の装束を用います。舞人は、向かって右の方から進み出て舞台に登ります。伴奏は、左方の舞と異なり、笙を通常は用いず、龍笛に代わって高麗笛を、鞀鼓に代わって三の鼓を用います。絃楽器は、全く用いません。三の鼓と太鼓のリズムに合わせて舞います。

(3) 歌謡

雅楽器の伴奏で歌う声楽で、日本古来の原始歌謡に基づく「国風歌」と、大陸系の音楽の影響を受けて作られた「催馬楽」および「朗詠」とがあります。

① 国風歌は、伴奏に和琴、神楽笛などの和楽器と篳篥のほか、曲目により神楽笛のかわりに龍笛、高麗笛などの外来の管楽器を併せて用い（笙は、全く用いません。）、笏拍子を打って、高雅に歌います。

② 催馬楽は、伴奏に三管と兩絃を用い、笏拍子を打って、俗調の和文を拍節的に歌います。

③ 朗詠は、伴奏に三管だけを用い、閑雅な漢詩文を非拍節的に歌います。

歌謡は、いずれも句頭の独唱に続いて歌方の全員で斉唱しますが、管楽器は主奏者だけが演奏します。また、笙は、管絃や舞楽の場合に和音を奏するのとは違って、歌物の場合には旋律を奏します。

4 雅楽の文化的価値

雅楽は、千数百年の伝統を有し、世界で最も古い音楽文化財として貴重な歴史的価値を持つものであり、昭和 30 (1955) 年、宮内庁式部職楽部の楽師が演奏する雅楽は国の重要無形文化財に指定され、楽師の全員が重要無形文化財保持者に認定されております。さらに、平成 21 (2009) 年には、ユネスコ無形文化遺産保護条約「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載されました。このように雅楽は、今後伝承されていくべき我が国の伝統文化として国際的にも認知されており、雅楽それ自体が発展し広まるとともに、他の音楽・舞踊に影響を与えていく可能性を有しております。

楽 器

1 管楽器



りゅうてき
龍笛



こまおえ
高麗笛



かぐら おえ
神楽笛



ひちりき
篳篥



しやう
笙

2 絃楽器



そう
箏
(楽箏)



びわ
琵琶



わ こん
和琴

3 打楽器



しょうこ
鉦鼓



たいこ つりだいこ
太鼓(釣太鼓)



かつこ
鞆鼓



さんのつづみ
三ノ鼓



しやくびょうし
笏拍子

I ^{かん}管 ^{げん}絃



II ^ぶ舞 ^{がく}楽
く に ぶ り の ま い
1 国風舞 (東遊)



2 さほう まい 左方の舞 (萬歳楽)



3 うほう まい 右方の舞 (仁和楽)





(青海波の袍の千鳥模様より)

発行 公益財団法人 菊葉文化協会

監修 宮内庁式部職楽部



この冊子は、**宝くじ**の社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。

